

## 会 議 録

会 議 の 名 称	第 1 回杵築市行政改革推進委員会
開 催 日 時	令和 2 年 1 2 月 1 5 日（火曜日） 1 3 時 3 0 分から 1 6 時 1 0 分
開 催 場 所	杵築市役所本庁舎 2 階 第 2 会議室
出 席 者 等	委員 4 人 事務局 4 人（企画財政課長、企画財政課職員 3 人）
議 題	杵築市の財政状況について 第 4 次行財政改革大綱及びプラン(案)の概要について 今年度の委員会の進め方について 第 3 次行政改革大綱実施計画の進捗管理について 第 2 次杵築市総合計画後期基本計画 事業評価について
記 録 方 法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会 議 内 容	
<p><b>1. 開会</b> (欠席者報告 1 名欠席)</p> <p><b>2. 委員長あいさつ</b> 今年度最初の委員会である。今後の杵築市のことをしっかりと考えた有意義な議論としたいと思うのでよろしくお願いします。</p> <p><b>3. 杵築市の財政状況について</b> (杵築市の財政状況について事務局から説明)</p> <p>(意見、質疑・回答要旨)</p> <p>○委員長：ただいまの説明について、意見、質問はないか。</p> <p>○委 員：黒字化への道が示されたことはとてもよかったが、わからない点は、未来戦略推進プランと第 4 次大綱の関係はどうなっているのか。プランに取り組めば、黒字化に近づいていくということか。</p> <p>○事務局：大綱はあくまでも指針である。プランはその指針を実現するために具体的にどういう方法で取り組むかというものである。プランの取組状況を中期財政収支に反映させつつ、毎年度見直して黒字化を実現していく。</p> <p>○委 員：黒字化の道しるべを作っていただいたので、それに向かって取り組んでほしいということと、枠の中で物事を進めていくということを絶対に厳</p>	

守っていただきたい。せっかく計画を作ってもその枠から自由にはみ出しては意味がない。難しいとは思いますが、枠の中で納めることを守っていただきたい。

○事務局：そういう意味でも、健全化条例とその中でガイドラインを作り、議会とも約束を決めて表に出して遵守する。

○委員長：ほかにご質問等はないか。

○委員：全ての予算を枠の中でやっていくということはよいと思う。財政状況がよい時ならば、市民にいろんなサービスの提供ができると思うが、今回のような状況では、ぎりぎりに切り詰めなければやっていけないと思う。担当課と知恵を絞って取り組むという説明があったが、本当にみんなで知恵を絞らなければ実現しないと思う。知恵を絞り、ぎりぎりの線で市民に納得してもらえる政策をしていただきたい。ガイドラインを作って議員とも切磋琢磨して取り組んでもらいたい。

○事務局：議会でも道路や建設事業などいろんな要望が出るが、単年度の地方債に枠を設け、災害や臨時財政対策債を除き、枠の中で優先順位を決めて事業を実施していく。新しい借金を抑えることで後年度の市民サービスの低下を防ぎたいと考えている。この間に事業を見直し、いい事業は残して過度なサービスなど悪い事業は廃止していく。プランでは、このような取組や繰上償還などにより令和6年度末に市債残高を200億円以下にすることを目標にしている。

（企画財政課長退席）

#### 4. 第4次行財政改革大綱及びプラン(案)の概要について

（第4次行財政改革大綱及びプラン（案）について事務局から説明）

（意見、質疑・回答要旨）

○委員長：ただいまの説明について、意見、質問はないか。

○委員：第3次大綱と第4次大綱との違いや第4次の特に目玉になる取組は何か。委員としてどこが変わったのかという理解をしておけばいいのかを簡単に教えていただきたい。

○事務局：今回の第4次大綱では、市民の皆様にも中期財政収支として見通しを示す中でこういう風に改善するという強い意志を示している。

○委員：それは、ぜひ市民にも示すべきだと思う。その方がお互いに寄り添える。もう一点、毎年度検証すると説明があったが、年度の終わりに結果がどうだったと検証するだけでは、次の年にしか反映できない。実務者的に

は、四半期に一度は検証すべきだと思う。あるいは、市長などトップを入れての議論は上期、下期に一回ずつは必要であると思う。大変だろうが、年度途中でもチェックはこまめにやってほしい。

○事務局：やっていきたいと思う。本日資料には準備していないが、今後、どういうふうに PDCA サイクルを回すか事務事業の見直しを含めて年間のスケジュールを作成している。10月、11月に翌年度の予算編成をするため、その前に事業評価を行い、確実に予算反映を行う。そのため、事業の事後評価は2月、3月など担当者が異動する前に作成し、4月以降にヒアリングや外部評価を行うというスケジュールで進める予定としている。

○委員：大綱に推進体制が載っているが、行政改革審議会と行政改革推進委員会の役割の違いは。

○事務局：行政改革審議会の中でも同じような質問があった。審議会は市の条例で定められており、大綱を作成してもらうことが主な役割であり、市が作った大綱案を審議していただき答申を行う。ただ、審議会の委員さんからは作った以上は責任があるし、評価もしたいという意見が出ている。現状、プランの評価はこの推進委員会で実施しているが、今後どういう組織で進めるのがいいのか庁内で検討し、決定させていただきたい。

○委員：ということは、場合によってはこの推進委員会を廃止する可能性もあるのか。

○事務局：今後の検討の中ではそれも含めて検討していきたい。

## 5. 今年度の委員会の進め方について

（今年度の委員会のスケジュールについて事務局から説明）

（意見、質疑・回答要旨）

○委員長：ただいまの説明について、意見、質問はないか。

○委員：開催が遅れたことのお詫びがあり、個人的には第4次大綱やプランの作成で推進委員会に手が回らないということは類推できるので構わないが、もしも、杵築市としてこの推進委員会に何らかのことを期待しているのであれば、忙しかろうが忙しくなかろうが本来は手順を踏むべきだったと思う。もちろん、期待した成果に影響を受けないというのであれば構わないと思うが、もしそれによって成果がでなかったということがあるなら好ましいやり方ではなかったと思う。

○事務局：係の中でも早急に開催しなければということは認識していたが遅れてし

まって申し訳なかった。

## 6. 第3次行政改革大綱実施計画の進捗管理について

○事務局：72項目あるが、3項目は中止しているため69項目について内部評価が終わっているという状況である。69項目中A評価が33項目、B評価が32項目、C評価が4項目である。もし、委員の皆様の了承が得られれば、A評価はこのまま行きたいと思う。もしくは、A評価の中でも評価が甘いのではないかという意見があれば、その項目についてはきちんと説明を行うという進め方でよいか。主にB、Cを説明し、評価いただければと思う。

○委員長：今の提案の進め方でよいか。

○委員：よい

○委員長：それでは、事務局から説明をお願いします。

(第3次行財政改革大綱実施計画の令和元年度実績について事務局から説明)

(意見、質疑・回答要旨)

### 2番 男女共同参画の推進

[質疑、意見なし]

[進捗度：75% 進捗評価：B. 一部実施]

### 3番 住民自治の充実

○委員：評価はCでいいと思うが、改善策に書いてある「委員会の設置の必要性をゼロから検討する」という意味は、元々委員会が要らないのではないかということなのか。

○事務局：委員会の運用がどうかというよりは、実際に実施されているかどうか他の委員会との併設も検討しているということである。

[進捗度：0% 進捗評価：C. 未実施]

### 4番 市民活動に対する支援機能の充実

[質疑、意見なし]

[進捗度：50% 進捗評価：B. 一部実施]

### 8番 市政情報の積極的な公開・提供

○委員：令和元年度の目標は、ウェブサイト閲覧数40万件の達成にしていたのか。平成30年度の目標は、閲覧数はなく、目標4項目中3項目達成の

75%という説明であるのでわかりやすいが、令和元年度の75%は根拠がわかりにくい。

○事務局：閲覧数の目標は総合計画にも掲げているためその目標と合わせている。

○委員：閲覧数だと9割は達成していることになる。進捗度の数値の説明がわかりにくいので75%の理由をわかりやすく書くべきである。

○事務局：修正する。

[進捗度：75% 進捗評価：一部実施]

#### 14番 図書館運営方法の見直し

○委員：外部からの図書館長の就任はいつからだったのか。任期はいつまでか。

○事務局：令和元年度の4月1日からである。3年間の協定を結んでおり、令和3年度までの任期である。

○委員：利用状況の実績はどうなっているか。

○事務局：平成30年度は開館当初であり約8万5千人の入館者数であった。令和元年度は約6万9千人であった。継続して入館者が確保できるように努めているところであるが、今年度はコロナの影響で少なくなっている。

○委員：コロナの影響ということで休館もあったが、人員を減らしたりはしていないか。

○事務局：それはしていない。

○委員：閉館中は通常とは別の図書の整理などの仕事をしてもらっていたのか。

○事務局：そうである。

○委員：関連して、配置されている職員について山香には司書さんが1名配置されているが大田には配置されていないのか。公民館の職員で対応しているのか。

○事務局：大田には司書は配置されていない。

○委員：大田に配置できる予算や人員はないのか。もしくはその必要があまりないのか。

○事務局：図書館の大小ということもあると思う。大田の図書館は、庁舎内にある小さめの図書室だと思うので職員を配置するほどの規模ではなく、公民館職員で対応している。

○委員：山香の図書館に通っていたが本の代わり映えがしない。いつも同じ本があるという状況であり、魅力がない。大田も魅力があれば利用価値があると思う。大田ももう少し充実させれば利用者も増えるのではないかと思った。

○事務局：意見は図書館に伝える。本の入れ替えは、ある程度は今もやっていると

思うが、大田、山香図書室の運営方法の工夫などを要望する。

○委員：大田の利用状況などを公民館に聞き取るなど、利用者を増やすための検討の一つに入れていただきたい。

○事務局：山香、大田についても市民が使いやすい方法の検討をとということの要望を伝える。

○委員：以前は、大田の図書館でボランティアの方が一生懸命活動していたような気がする。ボランティアへの手助けなどどういうことができるかということも考えてはどうか。市の新図書館の充実だけでなく山香、大田にも本の入れ替えなどもしてはどうか。

○事務局：インターネットで予約して利便性を上げることもしていると思うので、そうすると小さい図書館まで充実させることはしていないかもしれない。その辺も含めて担当課に確認する。

[進捗度：70% 進捗評価：B. 一部実施]

#### 16番 市立幼稚園の見直し

[質疑、意見なし]

[進捗度：80% 進捗評価：B. 一部実施]

#### 19-1番 外郭団体の見直し

○委員：評価はいいと思うが、産業館はどの課が担当しているのか。

○事務局：商工観光課である。

○委員：大変失礼かもしれないが、産業館は印象が薄い。あまり場所も知られていないし、行っても杵築をアピールするような建物や品物がない印象である。厳しいと思うが、何か一步踏み出す動きがないとこのままでは行ってみようという気にならない。

○事務局：全く同じような意見を別の委員会でもいただいた。商工観光課には伝えており、総合振興センターとの協議をするように再度伝える。杵築ブランドとして様々な商品を認定して、少しずつ並べているが、市外のお土産品も多いのは事実である。

○委員：今、2階はどうなっているのか。

○事務局：観光協会と株式会社きつとすきの事務所があり、そのほかの空きスペースは会議室として使っている。商工観光課では、総合振興センターのあり方についても検討しているところである。総合振興センターのケーブルテレビ事業の売り上げは上がっているが、産業館のほうは売り上げが厳しい状況である。

[進捗度：68% 進捗評価：B. 一部実施]

#### 19-2番 外郭団体の見直し

- 委員：改善策にあるプロパー職員はどういう意味か。
- 事務局：活性化センターで雇っている職員のことである。
- 委員：プロパーの意味は。
- 委員：基本的には直営と考えていいと思う。役所から派遣している職員ではなく、その事業体が自分のお金で雇っている社員である。

[進捗度：50% 進捗評価：B. 一部実施]

#### 20番 ケーブルテレビ事業の管理運営方法の見直し

- 委員：進捗度は75%なので、目標は2000世帯に対して今回は3/4である1500世帯しかできなかったという理解でよいのか。
- 事務局：3/4の1500世帯という意味ではない。区域面積で出していると思うが確認する。
- 委員：区域面積ではなく目標の2000世帯に対して何パーセントの進捗度を出したほうがいいのかと思う。それと、実施が後ろ倒しとなって来年度以降の実施に関しては遅れるだけで、実施はされるという理解でよいのか。不公平にならないか。
- 事務局：工事は遅れていくが、ケーブルが映らないということにはならない。
- 委員：目標は面積ではないので、世帯で進捗度を出したほうがいいのかと思う。それによって進捗度が変わるかもしれない。
- 事務局：担当課に世帯数を確認して次回報告する。

[進捗度：保留 進捗評価：B. 一部実施]

#### 21番 市立病院のあり方についての検討

- 委員：令和元年度は100%Aとなっているが、具体的な活動プランに書かれている在り方の検討もしているのか。
- 事務局：100%Aの内容は、在り方検討ではなくて経営改善の支援のみである。在り方検討はストップしている。
- 委員：それならよい。了解した。

[進捗度：100% 進捗評価：A. 予定通り実施]

#### 27番 諸手当の見直し

- 委員：進捗状況を見るとC. 未実施ではなく、A. 100%実施だと思った。

- 事務局：国に従うのか、県に従うかの違いであるが、事務局としても A. 100% でよいと思っている。担当課としては、未実施という評価だったため委員さんの意見を特に伺いたかった。
- 委員：今度は改正を行うのか。改定しようと思ったけど改定できなかったから未実施なのか。
- 事務局：現状では大分県に準じるため、改正を行わない。改善策には人事院勧告に準じと書いているので、そうすると国の制度に準じることになる。改善策の書き方を変更する必要がある。
- 委員：もう一度確認であるが、元々は住居手当を付けようとしたのか。
- 事務局：違う。国は、安い所の手当を削って高い所に持っていこうとしたが、杵築市の場合は安い所の該当者も多く若い単身世帯が困るので安い所は削らない、高い所も増やさないそのままの状態を変えてないということである。今回については人事院は出したが県内の状況を見たときに国と方針が違うため、県も同じく改正を見送っている。杵築市も国や県の状況を見て改正したほうがいいのかどうかの判断をした上で人事院勧告ではなく県の方針と同じ対応をしたという経過である。
- 委員：改善策を変更すべきである。
- 事務局：国や県の動向を見ながら諸手当の適正な見直しを行うというような文言に修正する。
- 委員長：改善策の変更と、進捗度は 100%A としてよいか。
- 委員：よい
- [進捗度：100% 進捗評価：A. 予定通り実施]
- 事務局：続きの項目は次回以降に協議する。

## 7. 第2次杵築市総合計画後期基本計画 事業評価について

- 事務局：すでに予算編成作業中の段階ではあるが、この外部評価の結果を来年度以降の予算に可能な限り反映していきたいと考えているため、速やかに進めていきたい。今年度の事業評価を実施するにあたり、シートを見直して変更したが新たな改善の必要も見えてきたため、来年度に向けてシートの改善と評価体制等についても見直しを行っているところである。今回は事務局において選定した20事業についてまずは評価していただきたい。

(事業概要等について事務局から説明)



(意見、質疑・回答要旨)

No. 1 定住促進事業の推進

○委員：継続と評価したが、その理由は令和2年度の状況として例年通りの予算がついているということと、田舎に住んでいるが高齢化がかなり進んでいる。少しでも若い人が移り住み、地域が元気になってほしいし、その地域に住み続けたいと思う子どもたちの気持ちを育み、杵築市の発展のためにも定住促進は大事な事業だと思う。

○委員長：今の意見では継続ということだが、ほかに意見はあるか。

○委員：私は、例年通りの予算ではよくないと思っている。縮小という意味の内容見直しをすべきだと思う。私の理解が間違っていなければ、転入者に補助金を渡すということを県や他の市もやっていると思う。他の市がやっていて杵築市だけがやらないのかということにはなと思うが、財政状況が厳しくてお金がないなら転入者に関しては、止めてもいいと思う。補助金がないから杵築市には住まないという判断をする人は多分少ないのではないかなと思う。杵築市に住みたいと思って、決めたら補助金があったからもらおうという人が多いのではないかな。聖域はないということであれば、例年通りではなく行政としての姿勢を見せてもいいと思う。ただし、逆に外に出ることを防ぐためのお金は使うべきだと思う。入った人を逃がすような政策は行政としては間違っている。少し冷たいかもしれないが、縮小に近い意味での内容見直しだと思う。

○事務局：担当課でも厳しい判断を迫られている。県外からの転入者を増やすために、この後出てくるが移住体験等の事業を実施している。最初の段階では補助金があるため、近隣の国東・豊後高田・日出のどこに住むか迷った時には補助金が影響してくる。もう一つは補助金ありきではなく杵築市に住みたいという思いから杵築に移住して補助金を活用するパターンもあり、両極端である。

○委員：私は移住してきたが、後者だった。逆の人もいるのか。

○事務局：行革を進めていく中では、市民の皆さんからも市民に使うべきお金だという声もある。ただ、今後の人口減少を考えると地域の活力を維持するためにも若干縮小しつつも事業としては継続したいという共通認識はある。

○委員：とはいえ、補助金の額は落とせないだろう。

○事務局：額を落とすと近隣と比較してどちらを選ぶかといったら高いほうになるので難しい。それならば人数を限定する方法も出てくる。選択肢を広げながら協議をしているところではある。

- 委員：転入してきた人が転出することもあるのか。
- 事務局：中にはあると思う。
- 委員：補助金をもらって何年以上住むことというような制限はあるのか。
- 委員：私の場合は、5年であった。5年以上住まない場合は補助金を返還することというように書いてあった。
- 事務局：5年未満で転出した人を追跡して返還してもらうということは難しい場合もある。また、いつも言われているのが子育て支援など他市に比べて十分な政策をしているのにそのPRが下手である。
- 委員：豊後高田市は、若者の定住促進に力を入れており、PRも上手くできている。やはり、わかりやすく魅力があると若い人はそちらの市を選ぶ。
- 委員：ということは、事業を継続してお金で釣り上げるしかないのか。転入者ではなく、入った人を出ないようにお金を使ったほうがいいと思ったが、やむを得ないか。
- 事務局：確かに委員さんが言われるように転出しない施策、魅力ある施策は重要だと思う。そうすると、転入者への補助金はやり方次第ではあるが、現状から行くと若干の縮小も仕方ないかと思う。杵築市だけこの補助金を止めるということは厳しいとは思っているので、縮小しながらも内容を見て継続していくという評価でどうか。事業の必要性はあり継続すべきであるが、事業費については予算規模を判断しながら縮小というような評価内容でどうか。
- 委員：よい。

## No. 2 移住体験事業

- 委員：先ほどの定住促進事業について前向きに進めるべきであるとの考えであり、この移住体験事業についても同じく定住につながる事業であるので継続と評価した。
- 事務局：この事業の予算規模は約150万円であるがこのうち国・県の補助金が付くため、市の持ち出しは85万円程度である。
- 委員：継続としたが、基本的には縮小と考えている。先ほど予算規模の説明があったが、予算的にはあまり多くないと思ったのでそれほど影響はないと考える。ただし、効果がなかったら止めたらいいいと思う。どの程度の効果があるのか。この事業自体いいことだと思うが、どちらかというと縮小であり最小限にとどめるべきだと思う。本当に効果があるのかわからないので毎年効果を確認して、効果があれば継続し、効果がなければ廃止するべきである。

○事務局：主な内容は、首都圏などで開催される移住フェアなどに職員が行って移住体験ツアー等に参加してもらうためのPRをするという取組である。行かなければPRができないため、必要な経費であると考えているが、移住体験など参加者の自己負担が少ないという印象もある。体験後に移住するかどうかはわからないので、少しでも費用負担を考えられないか担当課と協議している。そういう内容見直しをしたうえでの継続は考えられる。総合計画の事業目的に沿って効果を出せるかどうかが一番重要である。人口を少しでも増やし地域の活力を上げたいということが一番の目的である。

○委員長：私は、縮小と評価した。先ほどの定住促進事業と同じような評価でよいと思う。

○事務局：そのような評価とする。

### No. 3 薬用植物栽培支援事業

○委員：企業のCMで杵築市の名前が出てくる。これは、市のPRとして宣伝効果があるのではないかと。そういう効果もあるため継続が望ましいと考える。

○委員：予算の中の企業からの寄付金額はどのくらいか。100%なのか。

○事務局：ほぼ100%である。昨年度の予算規模は約500万円であり、そのうちの一般財源は約17万程度でありそれ以外は国の補助金と企業からの寄付である。

○委員：となると、企業からの寄付がなくなった場合、事業を止めるのか。市としては、寄付がなくなったら止める事業なのか、それとも寄付がなくても続けなければならない事業なのか。寄付がなくなったら止めるという事業ならば、今のうちに関係者を集めて本当に事業化できる採算がとれる事業なのか考えながら実施しないと、寄付がなくなったから止めるというそれで済むようなことなのか疑問である。そう思って、内容見直しと評価した。

○事務局：杵築市は、企業からの寄付があつてこの事業を始めた訳ではなく、東京生薬協会と協定を結び、国産の生薬栽培の産地の一つとして事業を開始した。市としては、住民自治協議会を中心とした生涯生産者のまちづくりの事業の一つとして高齢者が生薬栽培などで健康づくりと収入を得られるのではないかとことを目指している。事業を始めたところ、企業からの寄付がもらえたという経緯である。ただ、指摘があつたように採算という面ではやり方を見直す必要があると思う。最初はキキョウに

取り組んだが栽培に２年かかり採算をとるのは難しいということである。そのため、ハトムギなど違う薬草栽培も試して、そちらの方が採算がとれる可能性はありそうだということである。

○委員：ということは、寄付がある場合はやればいいと思う。ただし、寄付がなくなっても続けるというのであれば、今のうちに内容を見直して将来事業化できるような方法を並行して検討する必要がある。

○事務局：意見をいただいたように、「内容見直し」で事業内容を精査した上で実施すべきだというような評価としたいがよいか。

○委員：それがよい。

#### **No. 4 世界農業遺産活用推進事業**

○委員長：事前に出された各委員からの意見はそれぞれ同じような趣旨だと思う。

○事務局：この事業の中の負担金というのは県に出す人件費の部分であるため、削減することは難しい。その他の部分では予算を使わない範囲で取り組んでいるという状況である。また、七島蘭やお米はふるさと納税の返礼品としても活用している。

○委員：今後の方向性に書かれているのを見ると、農業文化公園に依頼することや九州大会に出品することなど新しいやり方でやってみようとしているのがわかる。そのチャレンジは一度やってみて様子を見てもいいと思う。それでも効果がなければやめることも検討してはどうか。

○事務局：新たなチャレンジの様子を見ながら事業発展ができなければ、廃止を検討すべきである。というような評価でよいか。

○委員：よい。

○事務局：続きの項目は次回以降に協議する。

○委員長：以上で議事は終了し、事務局に進行をお返しする。

#### **4. その他**

- ・ 次回の日程調整（１月２６日（火）１３：３０～）
- ・ 次回は、本日の続きの進捗管理と事業評価、補助金評価を実施する。
- ・ 事業評価について、20 事業以外に追加で確認したい事業があれば、事務局まで連絡をお願いする。
- ・ 会議及び会議録は原則公開である。

#### **5. 閉 会**